

栄光は神に、世界に平和

学院長 嶋田 順好

昨年発足したキリスト教センター附属大学ハンドベル・クワイアに引き続き、大学聖歌隊が今年度の後期から活動を始めました。感謝すべきことに音楽科の船橋洋介先生が、自ら指導を買って出てくださいましたのです。2015年度から1年生の前期に「音楽の世界」が必修科目として設けられ、新入生全員が、もれなく校歌、讃美歌、歌曲の合唱経験を持つことになったことも大きく影響したのでしょうか。なんと年度途中にもかかわらず19名の学生さんがメンバーとして加わってくださいました。その記念すべき第1回コンサートは、宗教改革500周年記念コンサートと銘打って、聖歌隊発足からほぼ1カ月後の10月31日の宗教改革記念日にチャペルで開催されたことでした。

宗教改革者マルティン・ルターは、西欧音楽史でも極めて重要な役割を担った人物です。ことに礼拝に参加する会衆全員が、ラテン語ではなく日常的に用いているドイツ語で讃美歌（コラール）を歌うことができるように改革したことは特筆すべきことでしょう。なによりも彼自身が音楽をこよなく愛し、30曲ほどの讃美歌（コラール）を生み出しました。宮城学院で用いている『讃美歌21』にも彼の手になる讃美歌が10曲も収められています。聖歌隊のコンサートでは、ルターの作品として最もよく知られている377番「神はわが砦」が讃美されたことでした。とても1カ月そこそこの練習しかしていないとは思えないような素晴らしい讃美を捧げてくださいましたことです。「神を畏れ、隣人を愛する」とのスクール・モットーのもとにある宮城学院になくはならない学生団体として、ハンドベル・クワイアと共に大学聖歌隊が健やかに成長していくことを期待し、祈らずにはいません。

ところでアドベントに入り、クリスマスを迎える備えの季節となりました。ルターの讃美歌のなかでも、ドイツを始め、世界中の人々に愛唱されている点では、「神はわが砦」よりも、クリスマスの讃美歌246番『天のかなたから』に軍配をあげるべきかもしれません。この讃美歌をルターは、自分の子どもたちのために作ったと言われています。

原曲では15節まで歌詞がありますが、讃美歌21では1-3節までが天使の御告げ、4節～6節までが子どもたちの応唱となっています。個人的には以下のように天使（大人）と子どもが、歌詞を交互に歌った方がよいのではないかと思います。

- 天使 1節 天の彼方からはるばる来ました。嬉しい知らせを伝えるためです。
子ども 4節 ようこそイエス様、お入りください。私の貧しい心の部屋にも。
天使 2節 マリアを母とし馬槽にまどろむ、幼子イエスこそみ神の独り子。
子ども 5節 何を捧げましょう、愛する主イエスに。小さな祈りか、喜びの歌か。
天使 3節 今こそ世界の罪を救うため、ここに現れたみ神の憐れみ。
子ども 6節 馬槽の光は暗闇を照らし、感謝と喜び世界にあふれる。

最後の7節は大人も子ども一緒に声をあわせて次のように力強く讃美します。

天使と一緒に讃えて歌おう。「栄光は神に。世界に平和！」と。

対立と紛争の絶えない暗い時代のなかにあればこそ、最初のクリスマスの夜にベツレヘムの荒野に響きわたった「栄光は神に、世界に平和！」との天使の讃美に私たちも相和しつつ、御子の御降誕を真実に喜び祝うクリスマスの時を迎えたいと願うものです。